

軍事と飛行機

第1次昭和「航研機」12 銭切手

「航研機」とは東京帝国大学航空研究所が設計し、東京瓦斯電気工業が製作した長距離飛行用の実験機です。1938年(昭和13)5月、関東上空を3日間にわたり周回飛行し、周回航続距離の世界記録(11,651km)を樹立しました。

翌1939年(昭和14)の12月1日、この航研機を描く切手が発行されました。国産の飛行機を図案にした最初の切手です。
(木村 1973, pp. 2-3)



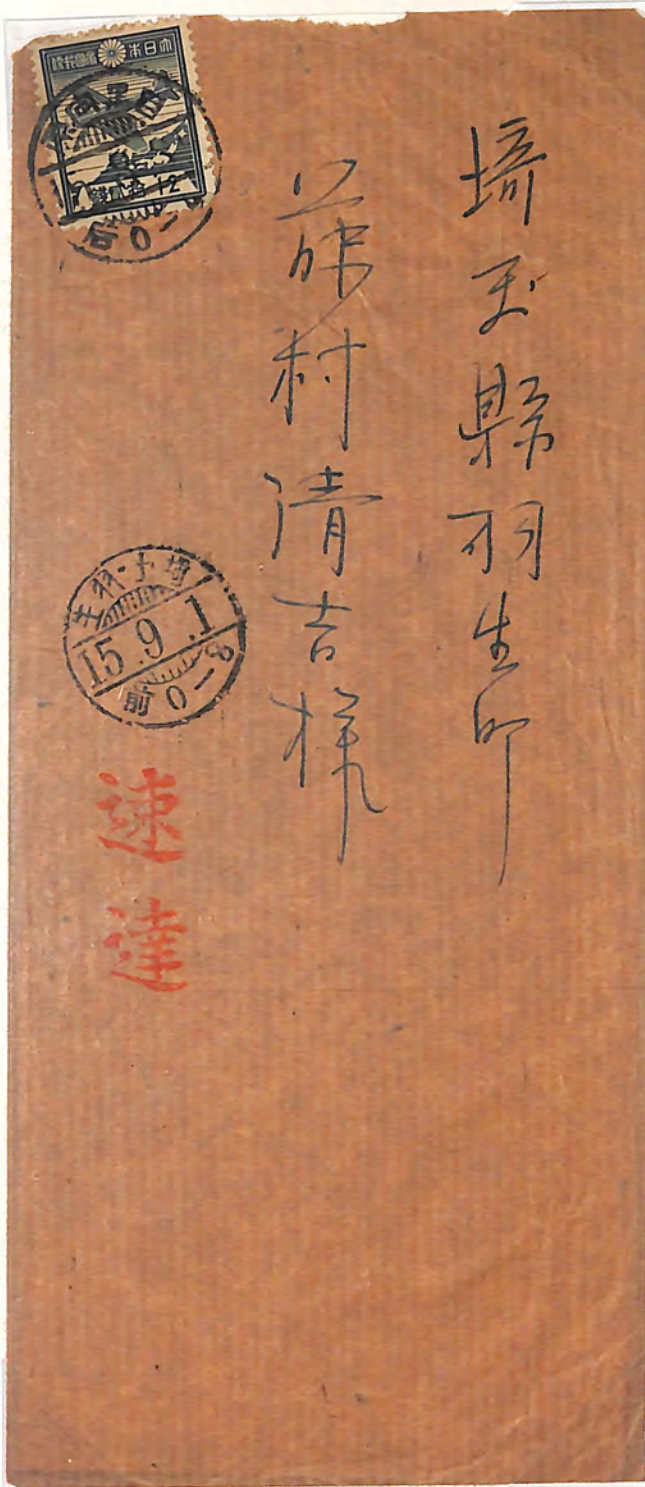
初期印刷(暗い青黒)



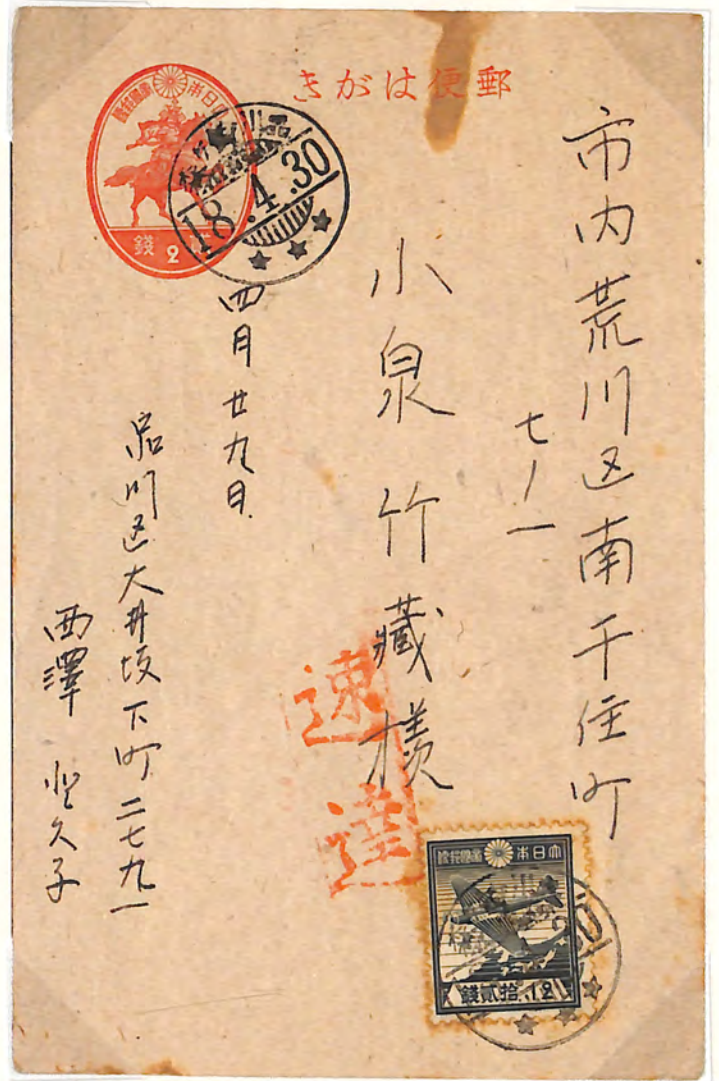
後期印刷(明るい青黒)



第1次昭和「航研機」12銭切手



書状 20g ごと4銭+速達料 8 銭
 (昭和 12. 8. 6~昭和 17. 3. 31)
 目黒向原 15. 8. 31 后 0-4
 ⇒埼玉・羽生 15. 9. 1 前 0-8



楠公2銭はかき速達便
 速達料 12 銭
 (昭和 17. 4. 1~昭和 19. 3. 31)
 品川鈴ヶ森 18. 4. 30 三ツ星

第2次昭和「産業戦士」6銭切手

戦意高揚図案を中心とする第2次昭和切手の1枚として、1944年(昭和19)9月22日に発行されました。雲海上を編隊を組んで飛行する陸軍の防空戦闘機「鐘鬼」をバックとして、軍需工場に徴用されて増産に励む産業戦士を描いています。

(「昭和切手の集め方」, p. 154)



「印刷局製造」銘(通称「内閣削り銘」)



目打ちスリ



落合長崎 20. 10. 8



飛行機から爆弾
(偶然変種)

第2次昭和「少年航空兵」15 銭切手

第2次昭和切手の2番目として、1942年(昭和17)10月1日に凹版印刷で発行されました。戦争の拡大に伴い、徴兵制だけでは人員が不足するので満16歳以上の志願兵制度が実施されました。この切手は日の丸を背景に敬礼する少年航空兵を描いていますが、軍国主義図案切手として、「産業戦士」6銭切手などとともに、昭和22年8月末日限りで使用禁止となりました(「追放切手」)

(「昭和切手の集め方」, p. 175)



(紫色ローラー印)



京都 21. -. 28

C 欄: 京都府



京橋 17
(縦書きローラー印)

第3次昭和「飛燕」5銭切手

1945年(昭和20)4月13~14日米軍機の爆撃により印刷局滝川工場が破滅的な損壊を受け、切手の製造ができなくなりました。第3次昭和切手10種は民間の印刷工場(一部は復旧した印刷局)において、無目打ち、糊なしのオフセット印刷で製造され、その大部分が戦後に発行されました。

5銭切手に描かれた飛燕は、川崎航空機が開発した液冷式エンジンを搭載した防空用戦闘機です。この切手も昭和22年8月末限りで使用が禁止されました。

(「昭和切手の集め方」, p. 200)



小字銘(25mm)、灰白紙
(凸版印刷・板橋工場)



中字銘(25.5mm)、白紙
(東京証券・札幌工場)



大字銘(24.5mm)、灰白紙
(東光堂・本所工場)



暗い緑



くすみ緑



青味緑



緑味青

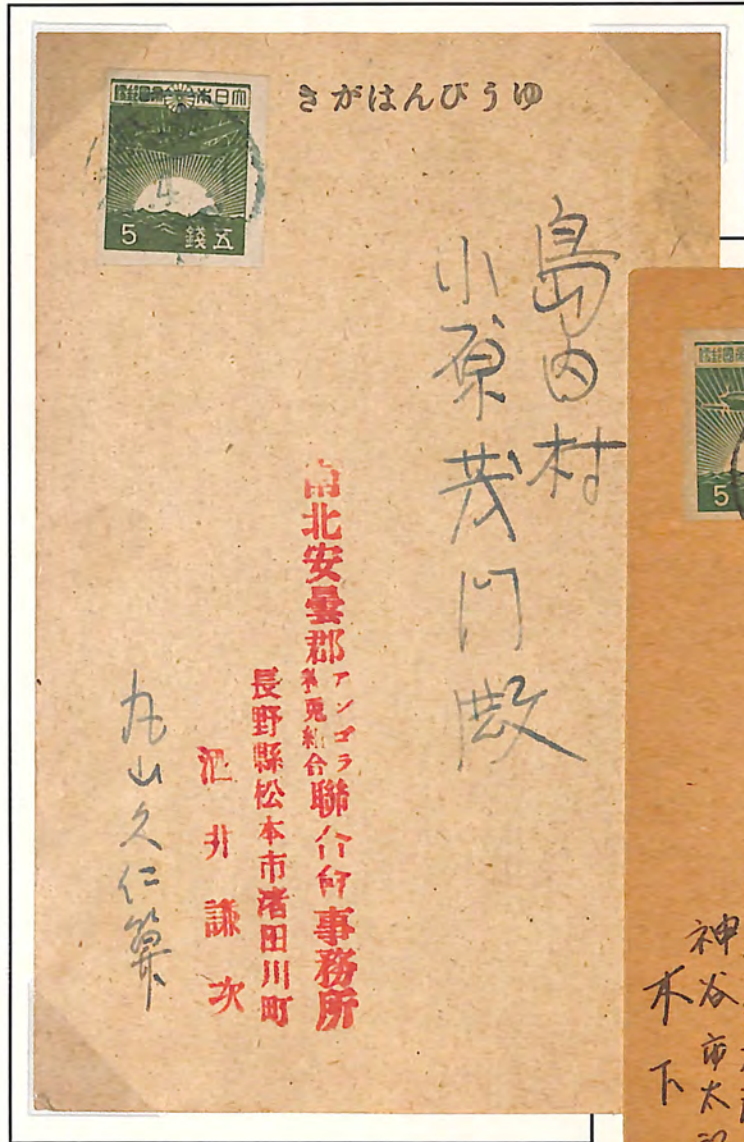


青

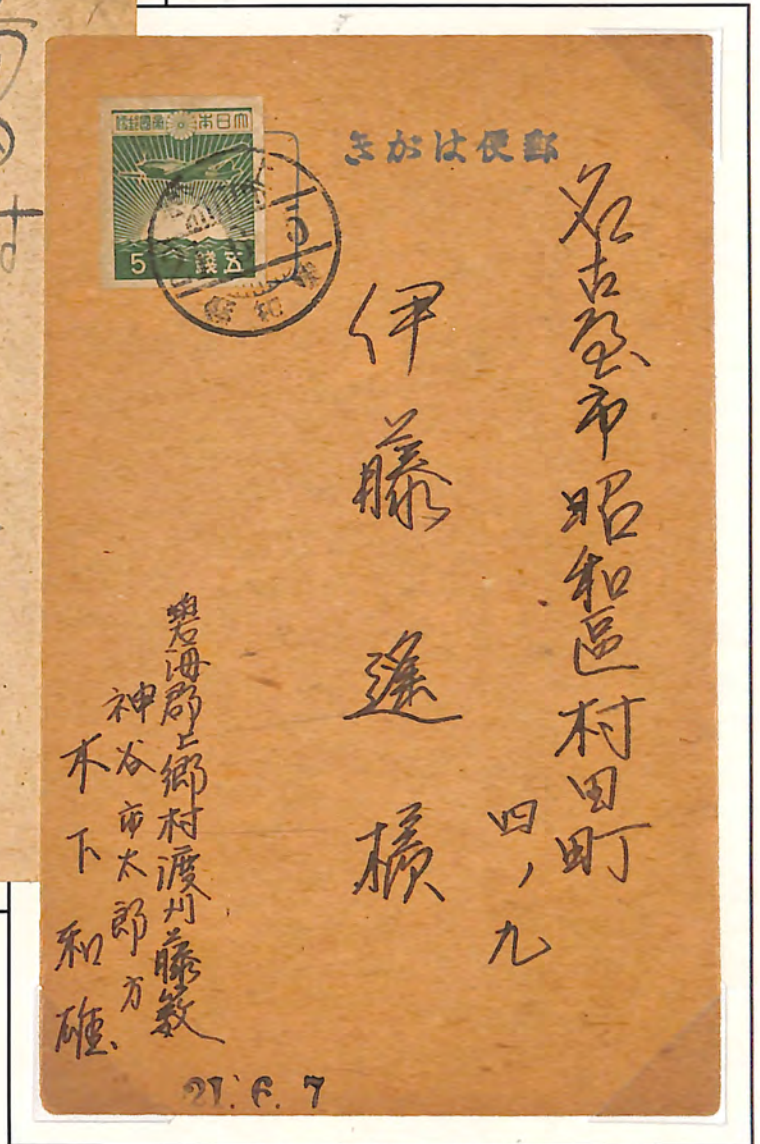


コバルト青

第3次昭和「飛燕」5銭切手

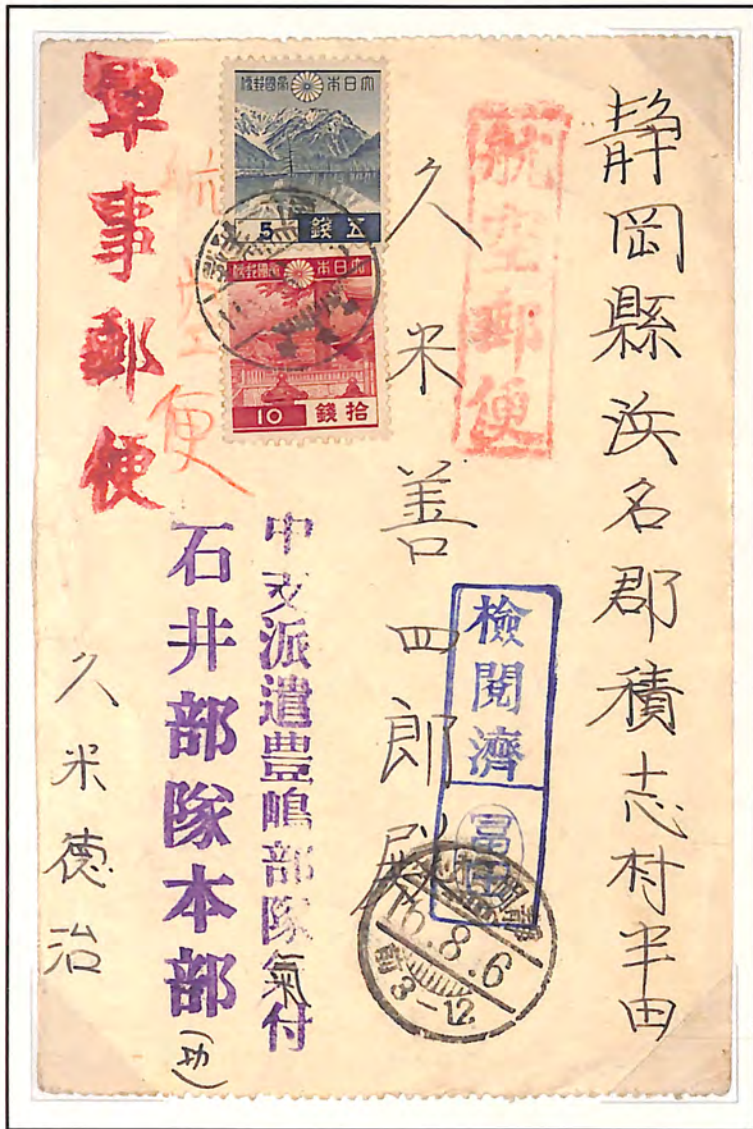


第2種通常はがき5銭
 (昭和20.4.1~昭和21.7.24)
 松本 21.4.7 (青色)



第2種通常はがき5銭
 (昭和20.4.1~昭和21.7.24)
 上郷 21.6.5 愛知縣

軍事郵便航空便



第2種通常はがき 区間航空便 15 銭

(昭和 12. 8. 16~昭和 17. 3. 31)

1次昭和「上高地」5銭+「陽明門」10 銭貼

第六一野戦 16. 8. 5 三ツ星

⇒静岡・積志 16. 8. 6 前 8-12



第1種書状 区間航空便 30 銭

(昭和 12. 8. 16~昭和 17. 3. 31)

1次昭和「厳島神社」30 銭貼

第六二野戦 16. 11. 4 三ツ星

⇒埼玉・飯能 16. 11. 8 前 0-8

「零式戦闘機」

「零戦」は1939年に三菱重工業によって開発された「零式艦上戦闘機」の愛称で知られています。零戦の機体は軽量で、このため機動性に優れ、長い航続距離を誇りました。零戦は真珠湾攻撃をはじめ、太平洋戦争全般にわたり使用されました。

20世紀シリーズ
第9集



2000年(平成12)
4月21日発行



防府 00.9.8



指宿 15.1.16



伊予 12.11.17



道場宿 12